

第4章

スポーツホスピタリティ ベニュー事例

施設概要

所在地	北海道北広島市 F ビレッジ 1
収容人数	約 35,000 人
開業	2023 年 3 月
所有者	(株)ファイターズスポーツ&エンターテイメント
運営者	(株)ファイターズスポーツ&エンターテイメント
拠点クラブ	北海道日本ハムファイターズ (NPB)



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

想定すべき VIP ルームの数や広さ等について、設計段階からあらかじめアメリカの建設・設計コンサルティング会社に調査を依頼し、需要共有バランスが整えられた。また、VIP ルームや専用動線等のホスピタリティ施設に加えサウナや名店街、ビール醸造施設等を備えるなど、話題性の事欠かない。

特徴的な空間・設備

■ 専用空間・専用動線

北側駐車場付近にホスピタリティ受付が設置され、各空間に至近距離でアクセスできる VIP 専用動線が存在する。



■ VIP ルーム

22 室の VIP ルームは全てスポンサー等の関連法人に販売され、現時点で一般向けには販売されていない。内装は、間接照明の使用等により高級感を演出しており、冷蔵庫、電源等の標準的な設備も備えている。また、近くにバーカウンターを備え、飲料の提供がスムーズに行われるほか、食事は別オーダー制を採用している。



■ プレミアムラウンジ

600 名強を収容するプレミアムラウンジが一塁側と三塁側に設置。室内は食事スペースと歓談スペースが分かれており、観戦シートに近い空間で飲食や談話が楽しめる。またライブキッチンを採用するなどエンターテインメント性を演出している。



国内事例 2

Panasonic Stadium Suita(市立吹田サッカースタジアム)

施設概要

所在地	大阪府吹田市千里万博公園 3-3
収容人数	40,000 人
開業	2015 年 10 月
所有者	吹田市
運営者	株式会社ガンバ大阪 (指定管理者)
拠点クラブ	ガンバ大阪 (J1)



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

ピッチを一望できるVIP専用フロアに多数のVIPルームとラウンジスペースが備えられており、シーズンを通しての契約となる「シーズン契約」、1試合毎に契約できる「マッチデー利用」の2形態で販売。飲食及びサービススタッフはホテルに委託し、上質なおもてなしを提供しているほか、スタジアムツアーやお帰り時のタクシー手配サービス等、ホスピタリティの付帯サービスも充実している。

特徴的な空間・設備

■多数のVIPルーム

4階VIP専用フロアには、メインスタンド・バックスタンドの両側にバルコニーシートが付帯したVIPルームを約30部屋備えている。



■豊富なラウンジスペース

同じく4階には収容人数や調度品が異なる7種のラウンジスペースを備えている。試合開催日以外にも貸し出しを行っており、会議、研修、パーティー、式典、展示会、イベント等の様々な用途に活用されている。



写真提供：株式会社ガンバ大阪

国内事例 3

エディオンピースウイング広島（広島サッカースタジアム）

施設概要

所在地	広島県広島市中区基町 15 番 2-1
収容人数	28,520 人
開業	2024 年 2 月
所有者	広島市
運営者	(株) サンフレッチェ広島 (指定管理者)
拠点クラブ	サンフレッチェ広島 (J1) サンフレッチェ広島レジーナ (WEリーグ)



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

国際試合を誘致できる本格的なレベルの施設が整う。ホスピタリティフロアごとにキッチンを擁し、また、トンネルラウンジやセンサールームなど幅広い需要に対応する設備もあることから、今後の新設スタジアムの典型例となり得る。さらに、利便性に恵まれた市内中心部に位置する立地を活かし、試合日以外のホスピタリティスペースの活用にも力を入れている。

特徴的な空間・設備

■ SKYBOX

メインスタンド側に 13 室、バックスタンド側に 6 室と、合計 19 室あるが、年間販売したのは 18 室のみ。残り 1 室はスポット販売を行っている。設計段階から部屋数を協議しながら進めたため、需要を事前に取り込むことが可能となり、スタジアムオープン前に 18 室が完売となった。同スタジアムでは非試合日の会議室等の需要も積極的に取り込んでいる。



■ 施設・空間の利活用

視覚的にデメリットのあるスタジアムのコーナー部分にテラスシートやベンチを設置。現在はフリースペース的に利用しているが、将来的にはホスピタリティにも活用できる空間となっている。また、最上階にもホスピタリティ用スペースが設置されており、シティビューを楽しめる会議室や飲食スペースとして利用されている。



©2024 S.FC

国内事例 4	SAGA アリーナ
--------	-----------

施設概要	
所在地	佐賀県佐賀市
観客席数	約 8,400 席
開業	2023 年 5 月
所有者	佐賀県
運営者	(株) SAGA サンシャインフォレスト (指定管理者)
拠点クラブ	久光スプリングス (SVリーグ) 佐賀バルナーズ (B1)



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

アリーナ 3 階全体がプレミアムフロアとなっており、同フロアへの専用動線が設計されているほか、立食パーティー等にも対応可能なスイートルounge、メインアリーナを一望でき、人数に応じた空間調整も可能なプレミアムラウンジ、そして個性溢れる 4 種のプレミアムスイートルーム等、多様なホスピタリティスペースが用意されている。

特徴的な空間・設備

■ 機能性も備えた、多様なホスピタリティスペース

○ファンクションルーム型
スイートルoungeは様々な形態のイベントに対応することが可能。プレミアムラウンジはメインアリーナ側に専用観戦席を備えている。

○VIP ルーム型
専用観戦席を備えた 4 つのプレミアムスイートルームは「飛翔」・「躍動」・「佐賀」・「歓喜」の名称が付けられており、それぞれ佐賀の工芸品やアーティスト作品などを用いた異なるコンセプト・デザインとなっている。

※各スペースの名称は作成時点



スイートルounge



プレミアムラウンジ



プレミアムスイートルーム<飛翔>



プレミアムスイートルーム<躍動>



プレミアムスイートルーム<佐賀>



プレミアムスイートルーム<歓喜>

写真提供：佐賀県

国内事例 5	長崎スタジアムシティ (PEACE STADIUM Connected by SoftBank、 HAPPINESS ARENA)
--------	--

施設概要	
所在地	長崎県長崎市幸町 7 番 1 号
収容人数	PEACE STADIUM : 約 20,000 人
	HAPPINESS ARENA : 約 6,000 人
開業	2024 年 10 月
所有者	(株) ジャパネットホールディングス
運営者	(株) リージョナルクリエイション長崎
拠点クラブ	PEACE STADIUM : V・ファーレン長崎 (J2) HAPPINESS ARENA : 長崎ヴェルカ (B1)



写真提供：長崎スタジアムシティ

本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

サッカー専用スタジアム「PEACE STADIUM Connected by SoftBank」、スタジアムに併設したホテル「STADIUM CITY HOTEL NAGASAKI」、多機能・可変型アリーナ「HAPPINESS ARENA」、オフィス棟「STADIUM CITY NORTH」、ショッピングモール「STADIUM CITY SOUTH」及び立体駐車場棟を備え、それらを連携活用している。ホテルと連携した料理の提供、日本では稀有な M2 階に位置する VIP ルーム等、最新のホスピタリティ環境が整っている。

特徴的な空間・設備

■ **PEACE STADIUM Connected by SoftBank** の特徴

スタジアムシティホテル長崎 4 階の STADIUM DIAMOND BOX は全室スタジアムビューで、専用の駐車場と入場口を完備。同 5 階の STADIUM PLATINUM BOX は試合観戦後にそのまま宿泊も可能。

どちらもスタジアムシティホテル長崎のフルコースやルームサービスが利用可能。

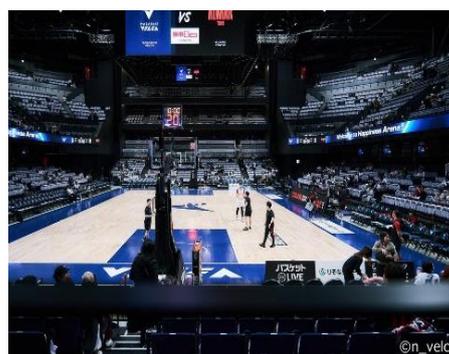
VIP ラウンジは試合開催時にはラウンジとして活用するが、それ以外はホテルの朝食会場としても利用されている。



©VVN

■ HAPPINESS ARENA の特徴

ARENA PLATINUM BOX は日本では稀
有なアリーナの M2 階（1.5 階相当）に位置す
る VIP ルームであり、臨場感のある試合観戦・
コンサート鑑賞が可能。専用入場口と専用駐
車場が利用できる。



©n_velca

施設概要

所在地	沖縄県沖縄市山内 1-16-1
収容人数	8,500 人（スポーツイベント時）
開業	2018 年 9 月
所有者	沖縄市
運営者	沖縄アリーナ（株） （指定管理者）
拠点クラブ	琉球ゴールデンキングス（B1）



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

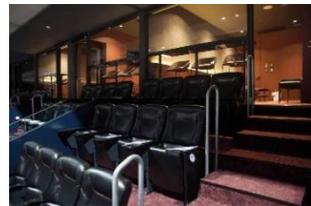
国内で初めて「観戦側」の目線も考慮して建設された本格的アリーナ。3 階にスイートルームを設置し、1 階にはコートサイドラウンジと呼ばれるファンクションルーム形式のホスピタリティスペースを備える。また、コートサイドラウンジに隣接して本格的なキッチン完備しており、上層階に料理を運搬できる食事もエレベーターも設置されている。

特徴的な空間・設備

■ 多数のスイートルームと専用動線

3 階にスイートルームを計 29 室備え、広さや家具等が異なる様々なタイプが用意されている。

一般入口（2 階）とは別に南北の 1 階に専用受付スペースや、ホスピタリティフロアに接続する階段、エレベーターが設置されているなど、アクセスが配慮されている。



■ 豊富なラウンジスペース

1 階にはバーカウンターを備えたバスケットボールコートをイメージしたデザインのラウンジを設置。

3 階、4 階、5 階にも様々な用途に活用できる大型のラウンジスペースを備えている。



写真提供：沖縄アリーナ株式会社

国内事例 7

富山市総合体育館（改修前／2024年1月・2月実施事例）

施設概要

所在地	富山県富山市湊入船町 12 番 1 号
収容人数	4,650 人（観客席数）※実施時
開業	1999 年 8 月
所有者	富山市
運営者	（公財）富山市スポーツ協会 ※実施時
拠点クラブ	富山グラウジーズ（B1）※実施時



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

富山グラウジーズがスポーツ庁「令和 5 年度 スポーツホスピタリティ推進事業」実証事業の採択を受け、クラブとして初めて取り組んだスポーツホスピタリティ。専用個室やキッチン環境を備えていない公設公営の富山市総合体育館での実施にあたり、造作・運営の工夫でホスピタリティスペースを創出した。

特徴的な空間・設備

■ 既存施設の有効活用の工夫

体育館の既存応接室 2 室を連結させ、ホスピタリティラウンジスペースとして活用。チームデザインのテーブルマット、ポスター等で装飾したほか、プロモーションビデオや試合中継を放映するモニターを設置。

併せてチームに関わるイベント情報等の掲出や、地元著名写真家の大型風景写真のパネル展示を行うなど、チーム情報だけでなく、富山の魅力発信も積極的に行った。

アリーナ内への入場も、一般の観客動線とチームロゴデザインのパーティションで 2 分割することで、ホスピタリティ参加者だけの専用動線を創出した。

写真提供：富山グラウジーズ

国内事例 8

いちご宮崎新富サッカー場

施設概要

所在地	宮崎県児湯郡新富町三納代 1 5 8 6
収容人数	5,354 人
開業	2021 年 3 月
所有者	新富町
運営者	(株) ライチパーク (指定管理者)
拠点クラブ	テゲバジャーロ宮崎 (J3)、 ヴィアマテラス宮崎 (なでしこリーグ 1 部)



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

2024 シーズンよりメインスタンドホーム側の 3 階のウッドデッキを整備し、テラスシートを新設。テゲバジャーロ宮崎の社長の「ヨーロッパの地方都市のように飲食を楽しみながら、サッカーを観戦する文化を導入したい」という構想を実現。テラスシートでは地元食材を活かしたビュッフェ料理・フリードリンクが提供されるほか、試合後に選手がファンと交流する「二次会」も開催される。

特徴的な空間・設備

■ 屋根付きのテラスシート

テラスシートではピッチ側にテーブル・椅子、逆側にビュッフェラインを設置。屋根があるため、日差しや雨なども気にすることなく観戦や飲食を楽しむことができる。また、同フロアに冷暖房完備のテラスボックスも 2 部屋備えている。



写真提供：テゲバジャーロ宮崎

施設概要

所在地	米国テキサス州アーリントン市
収容人数	40,300 人
開業	2020 年 5 月
所有者	テキサス州アーリントン市
運営者	テキサス・レンジャーズ
拠点クラブ	テキサス・レンジャーズ (MLB)



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

ホスピタリティ施設としては Field Suites、Founders Suites、Legacy Suites、Classic Suites とフィールドレベルから上段の階層まで数多くの席が設定されている。また、禁酒法時代のアメリカ風、旧スタジアム風等といったコンセプトがそれぞれ異なるクラブラウンジが作られており、シーズンを通して何度来場しても飽きない仕組みが考えられている。

特徴的な空間・設備

■ 多種多様なホスピタリティスペース

収容人数やコンセプト等が異なる多種多様なクラブラウンジがスタジアム内の各所に設置。スペースごとに違った雰囲気が楽しめるため来場者を飽きさせない。



■ 飲食調理・提供設備

巨大なセントラルキッチンが地下にあり、事前に調理・冷蔵保存して、試合当日は簡易的な調理で食事を提供できる仕組みを採用しているほか、スイートルームにもキッチンが付属しており、現場でも簡単な調理が可能となっている。また、スタジアム全体での大量のビール消費に備え、地下で貯蔵されたビールバレルから直接各所のバーカウンターのビールサーバーに直結する仕組みが備わっている。



海外事例 2

アメリカン・エアラインズ・センター

施設概要

所在地	米国テキサス州ダラス市
収容人数	20,000 席 (バスケットボール) 18,532 席 (アイスホッケー)
開業	2001 年 7 月
所有者	ダラス市
運営者	Center Operating Company, L.P.
拠点クラブ	ダラス・マーベリックス (NBA) ダラス・スターズ (NHL)



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

個室からシアターボックス風のものまで、幅広いホスピタリティスペースを備え、リピーターを創出しやすい環境となっている。会議が実施可能な内部施設を多く備えているため、試合日以外でもビジネスミーティングや社交イベント、ファンの集まりやパーティー、記者会見、コンサート、プライベートイベント利用が可能であり、試合以外のホスピタリティ収入を得ている。

特徴的な空間・設備

■ 多種多様なホスピタリティスペース

各階層に多様なスイートルーム・クラブラウンジを完備。スイートルームでも角位置の部屋は試合が見えにくく、従来売上は芳しくなかったが、ルーム間の壁を無くして複数の部屋を組み合わせ、カーテン仕切りによるシアターボックス風の空間に改装。完全なスイートから、共用のバー・ビュッフェを利用するカジュアルな仕様に変更したことで人気となった。



■ 家具店との連携

一部クラブラウンジに設置している机・椅子等は提携先の家具店から提供されている。利用者がその場で同じ家具を購入できるように、QRコードを卓上に置き、ショールームとしても機能させている。提携先と連携しての家具の調達と販売機会の提供という win-win の関係を構築している。



施設概要

所在地	米国テキサス州フリスコ市
収容人数	20,500 人
開業	2005 年 8 月
所有者	フリスコ市
運営者	Frisco Soccer, LP
拠点クラブ	FC ダラス (MLS)



本施設におけるスポーツホスピタリティの特徴

4 つのスイートと最大 75 名を収容可能なスーパースイートを有するほか、複数のクラブラウンジを備えており、試合当日のホスピタリティの他にも企業イベント、コンサート、宴会、ファンレイジングディナー、記念日、ブライダル&ベビーシャワー、卒業式、ホリデーパーティー、結婚式、カクテルパーティー、同窓会、誕生日パーティー等、多様な用途に使用されている。

特徴的な空間・設備

■ ゲストジャーニーに配慮した動線

車停めからすぐの場所にホスピタリティ専用の入口があり、そのままスイートルーム・クラブラウンジがある建物に入れる動線が備えられている。また、スイートルームへ向かう動線上にも雰囲気をも高める装飾が施されている。

スイートルームでは室内及び隣接する屋外席から観戦が可能。



■ ミュージアム隣接のラウンジ

ゴール裏のクラブラウンジはイベント等でも活用できる仕様となっており、試合時は、窓側に席を配置して間仕切りで区切り、食事提供するプレミアムシートとして利用している。クラブラウンジの真横には国立サッカー殿堂があり、米国サッカーの歴史や選手の紹介、女子 W 杯優勝トロフィーなど様々な展示がされている。



おわりに

これまで述べてきたとおり、スポーツホスピタリティは、スポーツを通じた様々なハブとしての役割を持ち、スタジアム・アリーナでのスポーツ観戦の質の向上にとどまらず、リーグ・クラブ等の収益化、ひいてはスポーツの成長産業化に寄与するものです。

近年、スポーツホスピタリティが求められる背景には、「みる」スポーツの価値が高まっていることがあります。

諸外国ではスポーツ観戦が、企業の商談や接待、要人の交流等に積極的に活用され、それがプロスポーツの価値や収益を高めることにもつながり、また、スポーツ観戦のみならず、飲食や宿泊、選手との交流等、スポーツに付随して質の高い特別な体験のできるホスピタリティサービスが提供されることによって、スポーツ観戦の付加価値を高めています。我が国ではそうした取組はまだ遅れています。

しかし、昨今では、スポーツホスピタリティを提供できるスタジアム・アリーナが各地に整備されつつあり、特別な空間を活用し、スポーツ観戦に加え、特別なサービス体験などの付加価値を提供する取組が増えるなど、スポーツビジネスにおける高付加価値コンテンツ創出への気運が醸成されてきています。

その一方で、国内の多くの施設では、スポーツホスピタリティを実施しようとしてもスペースが十分とは言えない状況もあります。そうした施設でも、コンテンツホルダー等の関係者が、それぞれの施設の現状を理解し、創意工夫のもと既存施設を最大限活用したスポーツホスピタリティに取り組んでいくことが期待されます。

本ガイドブックでは、現状や課題、スポーツホスピタリティの実践に向けたポイント、好事例を掲載しておりますので、より良いスポーツホスピタリティの実施に向けて活用いただきたいと思います。

また、スポーツホスピタリティの実施環境が十分でない場合の取組も掲載しておりますので、検討の参考にいただければ幸いです。

なお、こうしたスポーツホスピタリティを活かして、特に地元以外からも企業や高所得者等の誘客を図るためには、スポーツ以外にも観光、文化、宿泊、飲食等、地域の様々な関係事業者や関係団体等と連携し、スポーツ観戦の機会にとどまらない特別な体験を当該地域で提供できる機会をつくることが、対象となる顧客が当該地域を訪問・滞在する理由を高める上で重要となります。こうした取組を行うことで、スポーツにとどまらない地域産業の高付加価値化や地域経済の活性化をもたらすことが予想されます。

このガイドブックの活用により、「みる」スポーツの価値や収益を高め、スポーツ市場規模の拡大、ひいてはスポーツの成長産業化の一助となることを期待します。

本書における引用・参考文献

1. EY 総合研究所（株）・（株） J T B・（株） J T B 総合研究所「メガイメントにおけるスポーツホスピタリティのすすめ」, J T B 総合研究所, 2015
2. 藤本倫史・藤本浩由・倉田知己「ホスピタリティサービスをいかすスポーツビジネス学」, 晃洋書房, 2023
3. スポーツ庁「令和 5 年度スポーツ産業の成長促進事業スポーツホスピタリティ推進事業成果報告書」, 2024
4. B.LEAGUE 「ホームアリーナ検査要項〔2026-27 シーズン B.PREMIER 用〕」
<https://www.bleague.jp/files/user/about/pdf/r-38.pdf>
5. 原田宗彦ほか「スポーツマーケティング改訂版」, 大修館書店, 2018
6. 広瀬一郎「スポーツ・マネジメント—理論と実務」, 東洋経済新報社, 2009
7. Garmise M. (ed)「 Proceedings of the Inter-national Seminar and Workshop on Outdoor Education, Recreation and Sport Tourism 」, Emmanuel Gill Publishing ,Netanya Israel. 1987
8. 高橋義雄ほか「スポーツリズム・ハンドブック」, 学芸出版社, 2015

スポーツホスピタリティガイドブック

発行日 令和 7 年 3 月
発行 スポーツ庁
担当 スポーツ庁参事官（民間スポーツ担当）付

本ガイドブックは、スポーツ庁委託事業として、株式会社 JTB コミュニケーションデザインが実施した「令和 6 年度スポーツ産業の成長促進事業 スポーツホスピタリティ推進事業」の成果をとりまとめたものです。本報告書の無断転載、複製を禁止します。引用の際は、本書は出典であることを明記してください。

■ 本書制作における有識者ヒアリング・写真提供等に関わる協力団体・協力者

- ・ 沖縄アリーナ株式会社
- ・ 追手門学院大学 社会学部 社会学科 准教授 上林 功氏
- ・ Overland Partners, Inc.
- ・ 鹿島建設株式会社
- ・ 株式会社ガンバ大阪
- ・ 佐賀県庁
- ・ 株式会社サンフレッチェ広島
- ・ 静岡ブルーレヴズ株式会社
- ・ 株式会社 JTB
- ・ 公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ
- ・ ジークスタースポーツエンターテインメント株式会社
- ・ Sports Travel and Hospitality Group Ltd., (STH Group)
- ・ 株式会社テゲバジャーロ宮崎・いちご株式会社
- ・ 東芝レイブルバス東京株式会社
- ・ 株式会社栃木ブレックス
- ・ 株式会社富山グラウジーズ
- ・ PIA DAIMANI Hospitality Experience 株式会社
- ・ 株式会社広島ドラゴンフライズ
- ・ 株式会社 V・ファーレン長崎・株式会社長崎ヴェルカ
- ・ 株式会社北海道日本ハムファイターズ
- ・ 株式会社ヤマハリゾート 葛城北の丸

※本書内で写真提供者・クレジット表記等の併記が無い写真については委託事業者による撮影



スポーツ庁

JAPAN SPORTS AGENCY